

デジタル時代のグローバルサプライチェーン高度化研究会  
サプライチェーンデータ共有・連携 ワーキンググループ  
第1回 議事要旨

1. 日時 : 令和4年10月14日(金) 10:00-12:00
2. 場所 : 経済産業省 本館17階第1特別会議室及びオンライン
3. 出席者 : 齊藤座長、小宮委員、中村委員、中山委員、姫野委員、藤原委員、ブルーメンシュテンゲル委員、馬渡委員(代理が出席)、宗田委員

議事要旨 :

日 ASEAN における SC データ連携実現に向けたアプローチ

- ユースケースを想定し、どの機能/データはローカルで持つべきか、またはネットワーク上で共有すべき機能/データかを具体的なイメージを共有して議論する必要
- 日本が手をこまねいていると、欧州がものづくり基盤を席卷。早期の対応が必要
- Industry4.0の中で、中国や新興国のあり方は大きく変化。日本はノウハウを提供する側のスタンスではなく、一緒にノウハウを作り上げる姿勢が重要。また日本国内でのデータ連携は進みづらく、海外から逆輸入が有効
- CNを軸に欧州が仕掛ける経済エリア競争の中で、日本一国では相手にされない。欧州主導で競争力を握られないようにするため、ASEANと組むことが重要
- ASEANで結果を出して、グローバルに持ち込むことが重要

日 ASEAN で共創する際に優先すべきユースケース

<SC 構造可視化>

- 物流費の高騰は現地進出企業共通の悩み。データ共有により、例えば、共同積載をし、コスト低減できる可能性。企業間の悩み事や情報の共有にも有効と考えており、企業が丸となり物流費の高騰を打ち返していけるような施策をできないか、現地と検討中。
- 自然災害の影響や、新型コロナの影響も踏まえると、SCの安定性向上は重要。

<CFP 可視化>

- CFPにはこれから規制がかかる。ASEANから輸入した部品で、日本がグローバルビジネスする際にも影響がある。日本ではASEAN企業のCFP可視化は重要。
- CN、CEの規制次第で、ASEAN外に製品を輸出できなくなる。ASEANと協調した対応が必要。
- 自動車業界でもCFPは協調領域と捉え、データ共有の動きが出ているが、最初の協調ケースは社会のルール変化が発端。

ASEAN 側への訴求

- ASEAN各国の状況の違いを踏まえつつ、CFPデータ共有によるASEAN企業のベネフィットを明確にすべき。
- CFP対応などは必要だが、本質的な生産性向上とセットで取り組むべき。

- CFP 等の表面的、ストレートなベネフィット以外の観点も ASEAN への訴求として必要ではないか。
- ASEAN から魅力的な商材かは気になる点。日本は業務とツールをパッケージ化して売るモデルを持たないため、IoT 等の新しい分野では外資系パッケージのほうが展開では有利。
- 例えば、デジタル活用により、トヨタ生産方式などを ASEAN 企業が容易に導入可能となるとよい。これまではコンサルが現地に教えていたが、デジタルを活用し、暗黙知を形式知化することが重要。
- IDS/Gaia-X など仕組みは整いつつあるが、そこで利用するコンテンツは製造業の現場にあるノウハウを併せないと本当に使えるコンテンツとはならない。
- タイの LASI (リーノオートメーションシステムインテグレーター) 案件も、単なるデジタルの利用方法教育ではなく、製造業務自体を変える教育プログラムであったことが、現地政府に好評であった。キャパビルとセットが日本の強み。
- Gaia-x も独フラウンホーファーが、中小企業含めて入って、親身になって、その人の視点で伝えている。ASEAN に対して blackbox 化して、データを入れてもらうだけではデータ連携は進まない。現地企業の管理人材を育てる、企業の使いこなし能力を育てることが重要。
- 仕組み提供は良いが、日本企業がインプリシットなモノづくりの知見・ノウハウも含めて海外に出していく覚悟をするか否か。ここが大きなポイント。

#### エコシステム形成の重要性

- 日本製造業がビジネスを行うにあたり、ASEAN に良い製造拠点になってもらう、という視点が必要。
- 経済エリア競争となる中、日本は今から欧州と共にやるのか。それともアジアとともに経済圏を作るか。そういう話がここで議論されるポイント。日本企業単独ではなく、ASEAN 各国とも一緒に得意な所をお互いに持ち出しながらやれると成功モデルが出来るのではないか。
- アジア側は「何をすれば CN なのか」、「どうすればサーキュラーエコノミーに対応できるのか」、CN も GE も何を対応すればよいかなど、知識としてあまり分かっていないかもしれない。日本企業が先行し、ノウハウなどを一緒に勉強し、現場でもトレーニングするような枠組みでやるとよいのではないか。
- 日本だけではなく、欧州、米州、中国、そうした時にビジネスマッチングが、工作機械から見て1つの大きなプラットフォームを作るデータ連携のチャンスと考える。
- ASEAN 各国は言語、文化も異なり、また米中の影響も国によって異なる。この多様性が ASEAN のデジタル化が遅れた理由であり、取り組みにあたり留意が必要な点。
- ASEAN 各国でも、各業界でも特性がある。エコシステムをどう作るかが重要。ASEAN とどんなビジネスをしていくのか、共通的なプラットフォームを議論できるとよい。

#### お問い合わせ先

通商政策局 通商戦略室 電話：03-3501-1567